

湯沢CS通信

令和6年6月18日 第71号

(発行) 湯沢市教育委員会

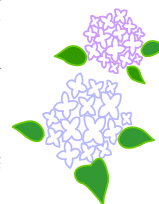
学校教育課 CS担当

各学校の課題解決に向けて

各学校から提出していただいた第一回学校運営協議会記録より、すべての学校で校長先生が学校の課題を示し、学校運営協議会として解決に向けて動き出そうとしている様子が伝わってきました。各校の課題の一部は次のとおりです。

- ・学校と保護者・地域が連携・協働していくためには(湯沢東小)
- ・ふるさとキャリア教育の充実(湯沢西小)
- ・小・中連携による地域に根差したキャリア教育の充実(山田小)
- ・学校に地域の方が足を運ぶ、児童が地域に出向く双方向の活動の実践(稲川小)
- ・地域を教材としたキャリア教育の具現化(雄勝小)
- ・健康な生活習慣の形成(メディアの適切な利用)(皆瀬小)
- ・PTA活動の活性化(湯沢北中)
- ・進んで地域に貢献する生徒の育成(山田中)
- ・学校やCSの取組の地域全体への周知(湯沢南中)
- ・INAZEM活動と防災教育の充実(稲川中)
- ・学校の活動の地域への発信と防災教育の充実(雄勝中)
- ・教員・保護者・地域住民へのCSの活動内容の周知(皆瀬中)

二回目以降の協議会で解決策が検討され、学校の課題が解決に向かうことを期待しています。



校長先生の「CSに対する思い」 Part 1

「みんなでつくる笑楽幸」

湯沢東小学校長 寺田 玲子

本校の学校教育目標の副題は「ひびき合いみんなでつくる笑楽幸」です。子どもたちには、地域の中で地域のよさを実感しながら成長してほしいと思います。そのために、学校と保護者、地域が連携・協働してどんなことができるかを模索していきたいと考えています。学校運営協議会を中心に熟議を進め、地域イベントや地域学習等で地域とつながりを持ちながら、みんなの力で地域とともにある学校をつくっていききたいと思っています。



「『いっしょに』成長する活動を目指して」

湯沢西小学校長 伊藤 武

今年度の学校教育目標の副題を「いっしょに学ぶ いっしょに創る いっしょに伸びる」としました。ここでいう「いっしょ」とは、子どもや教師だけでなく、家庭や地域も「いっしょ」になって学び、新しいものを創造し、そして成長を実感する、まさに、CSや地域学校協働活動の中心的理念である「協働」を意識したものです。創立一五〇周年を迎える今年度は、学校・家庭・地域が一体となって、次代に向かって新しい価値を創造し、「いっしょ」に成長を実感できる活動にしていきたいと考えています。



「創立百五十周年記念事業を地域とともに」

山田小学校長 土田 裕志

創立百五十周年となる本校は、次の四つを基本コンセプトとして、様々な取組を行っていきます。「温故知新」「今ある山田小のよさを再確認し活かす」「保護者や地域の皆様から祝ってもらおう」「今までの山田小に感謝し、これからの山田小に期待してもらおう」このコンセプトに基づき取組を遂行するためには、地域と協働しなければならぬのは必然です。CSとして、創立百五十周年の取組を地域とともにしっかりと行なって参ります。



「地域とともに在る学校となるために」

稲川小学校長 佐藤 俊介

開校から三年目、今年度の課題は、ずばり新たな校風の創生である。稲川小学校はどんな学校かと問われたとき、子どもの口から〇〇な学校とすぐに出るようになってほしいと考えている。これまでの二年間、地域の方々と交流する中で、見えてきたキーワードがある。それが「地域とともに」である。この言葉を具現化するために、今年度は生徒指導による地域連携、ふるさと学習による地域協働、そして児童会活動による地域貢献を三本の矢として取り組み、地域とともにある稲川小を実現したいと強く願っている。



「地域とともに十年目」

雄勝小学校長 渡邊 博久

雄勝小学校は今年開校十周年を迎えます。一つの節目に向け、開校十周年記念事業実行委員会を昨年度立ち上げ、今年度本格的に動き出しました。実行委員とCS委員が一体となり、雄勝小学校を地域の方にさらに深く知ってもらうための事業を計画し、地域とともにある学校を形にしていきます。委員の様々な意見をもとに、子どもたちが「ふるさと雄勝」の一員として実感できる取組ができるよう、委員とともに精一杯頑張りたいと思います。



「地域に根ざした持続可能なCSの取組を」

皆瀬小学校長 佐々木 誠

児童数の減少が著しい中、児童が多様な見方や考え方に触れる機会を増やすために、CSを活用し、地域人材や地域の教育資源を学校の教育活動に積極的に取り入れていくとともに、地域のイベントである紅葉まつりと学習発表会の合同開催等、地域と学校の協働活動をさらに充実させていきたいと考えます。また、しばらく更新されていなかった地域の危険箇所マップをCSと学校が協力して改訂するなど、今後も持続可能な取組を進めていきたいと思っております。

